

子ども・若者に縁ひへり

～キッズサンガをさらに～

～スタートアップガイド～

「おもてなし」と「おもてなし」の
「おもてなし」を設置し、「キッズサンガ」をさらに～展開していくアントレpreneur、「若者への縁ひへり」を実現する。



ご縁

「子ども・若者ご縁づくり」って
なんでしょう？

0歳から40歳未満の方々を対象とし、
世代と属性に応じた教化活動をすることです。
具体的にはキッズサンガを「さらに」取り組むことと、
「さらに」若者層へのご縁づくりに取り組んでいこうとするものです。
子ども・若者たちが親鸞聖人の教えに親しみ、お聴聞する人となり、
自他ともに心豊かに生きることができる
人生と社会の実現者になってもらう。
これが「子ども・若者ご縁づくり」の基本理念です。



「ご縁づくり」に取り組むにあたり次の2点を大切にしています。



1. 浄土真宗・お寺・僧侶のことや、
「手を合わせお念佛申す」ことの意味を
わかりやすく正しく伝えることで、
これらに**親しみ馴染んでもらう**ことから始める。
2. 現代社会を生きる
子ども・若者たちの現状に学びながら、彼らに寄り添い、
共に**「人生の方向と生きる意味」**を
阿弥陀さまに聞いていく**「居場所づくり」**をしていく。

このスタートアップガイドはあくまでヒントです。

「あなたの半径5メートル以内」にいる子ども・若者へ、あなたが「声かけ」をすることがアプローチの第一歩です！
各々の教区・組・寺院で実行しやすい事から始めていきましょう。

「つくり」
「つなぎ」
「深める」
馴染んでもらうことから



取り組み

ご縁のない方への取り組み

ご縁のない方にもお寺に馴染んでもらい、浄土真宗を聞いてもらえるよう様々な取り組みがなされています。

(その一例を紹介します)

坊主BAR 縁

繁華街の休業店舗を借り、そこを会場に僧侶が声明と法話をすることで、仏教に親しみ仏教を聞く場を作る活動です。 言うならば「繁華街での法座活動」で、ここを接点としてお寺に来てもらう工夫もなされています。



candle night LIVE

カンボジア支援チャリティーというテーマ性を持ったイベント。 テーマに共感した若者がお寺につどい、その若者がほかの友達に呼びかけ、新たな出会いを持ち、一緒にイベントに参画し、運営することを楽しみながら、仏教に出会い、環境問題や世界の貧困について考え、共に行動する活動です。



宗派の取り組み

思春期・若者を知るための公開シンポジウム

子ども・若者たちの現状を学ぶシンポジウムを開催。

「一対一の関係性の重要性」と「真の依存先を持つことの重要性」の気付きと、「相談してもらえる大人・信頼される大人」への自己変革を促されるものでした。

(平成27~28年度にかけ京都、東京、札幌、名古屋、福岡の順で開催。)



—現代版寺子屋スクール・ナーランダ

仏教と多様な分野の講師陣の授業を受けてもらい、受講者と講師との対話をする中で、若者に仏教、浄土真宗を生きる「軸」としてもらう新しいカタチの伝道活動です。

京都と地方で継続開催することで、浄土真宗やお寺の若年層ファンを増やし引き続き仏教を聞いてもらおうとしています。



ご縁づくり「3つのかたち」

日常生活で

ご縁づくり

1

子ども・若者たちの
生活の中で
「手を合わす」ことが
自然に身につくように
働きかけることです。



ご家庭への働きかけ具体例

ご本尊をお迎え

「手を合わす場所」がないと手を合わせる習慣は身に付きにくいもの。
進学や就職で他所に住んでいる若者に「ご本尊」をプレゼントする事をお勧めする。



食事のことば

手を合わせ「いただきます」「ごちそうさま」という習慣付けを勧める。

ご法事を子ども・若者たちに合わせる

ご法事は子どもや若者にとって「宗教的生活」や
「命のつながり」を感じる大きなご縁です。
子ども・若者もお参りしやすい日に
ご法事を勤める事を勧める。
僧侶はご法事で子ども・若者が理解できるように
ご法話をすることを心がける。





お寺が働きかける具体例

「あいさつ」声かけをする

子ども・若者と顔なじみになりましょう。
通学・通勤途中の方に「おはようございます」等挨拶を始めることからでも。



「お寺deごはん」

話題になっている「子ども食堂」の「お寺版」のことです。法要時のお斎や、有志による手料理を属性世代を問わず一緒に気軽に食べられる場を作るのは寺院でこそ。



子育て広場・お勉強会を企画する

単立家族がふえた現代、子育て中の母親や父親は孤立しがちです。お寺で子育ての悩みを言うことのできる場として「子育てサロン」を開催したり、子どもたちの夏休みの宿題を本堂でみてあげることも寺院だからこそ出来る取り組みです。

心のプレゼントをする

お寺でお土産をもらうことは子どもにとってサプライズ。「阿弥陀さまからのプレゼントだよ。仏さまにお礼を言ってね」と一言添えます。

中学生・高校生にダイレクトにメッセージをおくる

ご縁のある中高生年代の方に、彼らたちがホッとする言葉を記したメッセージカードを誕生日など年賀状替わりに出すことや、LINEなどのSNSを利用して「今月のことば」の送信をするなど。

平素の法要・行事で

ご縁づくり

2

法要や行事の参加者を大人のみと想定せず、すべての世代に開かれたものとすることです。



具体例

初参式・入学・卒業祝い・成人式

人生の節目を阿弥陀さまの前で共にお祝いをする行事を企画する。



花まつり・成道会・涅槃会

釈尊のメモリアルデイを、門信徒ともに企画開催する。



降誕会・報恩講・盆踊り(お盆)など

降誕会や報恩講をはじめ、各法要に子ども・若者がお参りできるよう、内容、日時などを工夫する。

子どもや若者に特化した集いで

ご縁づくり

3

子どもや若者の
興味と関心に応じながら
浄土真宗に触れられる
イベントのことです。

具体例

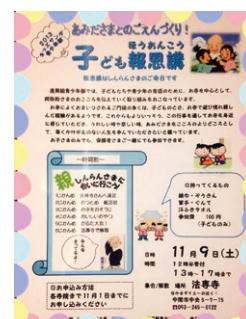
日曜学校、子ども会やスカウト活動、 青年会活動を開設する

世代に応じたグループでご縁にあっていく活動です。



お泊まり会～サマースクールなど～

年に一度でもお寺で子ども対象の集いを開催してみる。
中学生や高校生にはスタッフとして参画してもらう事で親しんでもらう。



子ども・若者のための報恩講を企画する

恒例の報恩講とは別に「子どもや若者のための報恩講」を企画する。
中学生や高校生がリーダーになって子どもたちと一緒に開催する。



本願寺児童念佛奉仕団に参加する

10名以上の団体で申し込むことができる。
詳しくは本願寺 児童念佛奉仕団のページに。

30年後

あなたのお寺の30年後を想像してみてください。

そのお寺に人々はお参りしているでしょうか？

そこにお寺は建っているのでしょうか？

今と同じ姿が想像できますか？

寺院崩壊時代

鵜飼秀徳氏（「寺院消滅」[2015年、日経BP社発行]）によると、全国には約7万7,000のお寺があり、そのうち住職がいないお寺が約2万ヶ寺。さらに宗教活動を停止したお寺は2,000ヶ寺以上に上ると推定されています。3ヶ寺に1ヶ寺は消えていく。そんな時代の岐路に今、私たちは立っています。

宗教活動停止

2,000ヶ寺以上

全国のお寺

約77,000ヶ寺



家族形態の変化



むかし、仏教は家庭の中にありました。朝はお仏壇へのお給仕から一日が始まり、夕べには一日のお礼参り。おじいちゃん、おばあちゃんから孫まで一緒に参りするので、お仏壇、そしてお念仏を申すことは誰にとっても当たり前のものでした。しかし現代は核家族化通り越し、ホテル家族という言葉が出現するように、家族の一人一人が孤立する傾向にあります。したがってお寺にお参りするとか手を合わせお念仏申すということの伝承が効かない事態になっています。

この事態の何が問題なのでしょうか？

実はこの変化の中で、人知れず苦しんでいるのが子ども・若者たちです。

というのも、子ども・若者が悩みや苦しみを抱えたとき、関係性が断絶した社会や家庭の中にその悩みや苦しみを受け止めてくれる人がいない中で、孤独や生きづらさを感じながら生きている人が増えているということです。

子ども・若者には「ここに居て良いんだ」、「自分のことを分かってくれている人がいる」と感じられる＜居場所＞が必要なのです。

お寺をその＜居場所＞に

お寺を人と人との共感が生まれる場所にしませんか。孤独を抱え、生きづらさを感じている子どもたちに「自分の存在がまるごと受け入れられる場所、真のよりどころ」があることを伝えていきませんか。

共に阿弥陀さまのお話を聞く場へ

何も難しいことを考える必要はありません。お寺にお参りに来られた子どもにきんを叩いてもらうように声をかけてみませんか？初参式を開いてみんなでお祝いしませんか？特別なことを始めるのではなく、日常にちょっと手を加えるだけで関係性が変わっていきます。その一步を積み重ねて、一人一人とつながることができたならば、そこはみんなが居ていいく居場所なのです。

その＜居場所＞としてのお寺が、子ども・若者たちはもとより大人も、共に阿弥陀さまのお話を聞く場となることが願いです。

発行：子ども・若者ご縁づくり推進室

TEL 075-371-5181 FAX 075-351-1211 mail ; goen@hongwanji.or.jp